

1 章 欲望の呪縛から逃れる

戦後の右肩上がりの高度経済成長期を経験した日本人は、成長が終わり、人口減少を迎えた現在も成長を求め続けている。
→国、システム、人の「老い」を考えるべき時代
資本主義システムの主体は「消費」
人の消費欲求は、**必要なものの欠落ではなく不要なものの過剰による**。
私有＝他者の持たないものを自分が持っている＝社会的な差別指標

私有すればするほど私有の欲求が増幅し、失うことへの恐怖も生まれる。

2 章 非私有的生活への足掛かり

戦後は資源が絶対的に足りなくて分け合っていた時代（共和的貧困）からものが溢れ私有する時代へ。
→家族システムは**自然過程的**に多世代から核家族、個人化へ。

しかし昔のような地縁共同体には魅力的だけれど戻りたいとはならない。
→これからはどうするか？

3 章 リナックスという私有地

〈リナックスカフェ〉
1990 年頃、今までの閉じられた場で開発するのではなく、リナックスというオープンソースであらゆる人が開発に携われる場がネット上に生まれた。しかも、従来より優秀なソフトが生まれている。
社会を動かす 2 つの原理
i 命令する原理 ii **理解する原理** 「エリック・レイモンド『伽藍とパズール』」

リナックスのような場を作りたいと思い、リナックスカフェの事業を起こす。（資本主義に対する革命の試み）
システム→注文しなくてもテーブル、椅子、コンセント、パソコンを無料で利用可能な場所
→資金的に事業が立ち行かなくなった。

〈親の介護〉
事業を解体し、親の介護をすると、料理が楽しくなったが、親がいなくなると興味がなくなった。
→「わたし」とは「わたしたち」の一つの現れでしかないこと、贈与の大切さに気が付く。

現代は等価交換が当たり前＝「富者のコミュニズム」
本来のコミュニズムは対価を求めない贈与的なもの。
贈与＝人間の本性やそおの人間がつくる社会や国家に関わる本質的な意味を内包している。
→貨幣交換、等価交換は贈与という全体の部分に過ぎない。

4 章 共同体のジレンマ

共同体は**相互扶助と同調圧力**というプラスマイナスの面がある。
共同体と個人が共存するためには、野生社会と文明社会の間に緩衝帯が必要のように、**二者択一ではなく、程度の問題にできる場**が必要。
その場とは**共有地＝アノニマスに利用でき、誰も所有権を主張せず、共同体メンバーにも外部の人にも開けている場**

5 章 家族の崩壊

前近代＝封建主義か自由主義かの**二者択一**
現在＝**程度の問題**へ転換可能（1 人でも生きていけるようになった）
代表的なのがコンビニエンスストア
「働くこと＝生きること」から「消費すること＝生きること」
「生きる、家族を養うために働く」から「遊び、学び、消費するために働く」
→家族の中に埋没していた**「個人」の意識化**
「共和的な貧しさ」から消費が個性を演出する**「差異」の時代**へ
＝**共有から私有の時代**へ

現在高度成長期によって低下してきたエンゲル係数の割合が上昇してきている。
コロナ、世帯の老齢化も一因かもしれないが、総供給が総需要を上回る資本主義の限界を示している。

6 章 消費資本主義から人資本主義へ

産業資本主義の時代（労働や生産の現場が作り出した価値観が支配的だった時代）
→学生＝青年（自分が属している集団によって自分が評価される）
消費資本主義の時代（消費が人間のステータスを象徴する時代）
学生＝若者（出自や属性ではなく、能力の結果であるお金の量で評価） [三浦雅士『青春の終焉』]
貨幣＝ i 無縁な人々をつなぎとめる公平で透明なツール
 ii 共同体における「支配－被支配」を清算するツール

そもそも借金は道楽目的ならまだしも、生きるのに必要なお金を借りるのは最もいけない。[内田百閒]
戦前、戦後は味噌、醤油の貸し借りと同じ手軽さでお金の貸し借り、実質のところ**喜捨**が行われていた。
喜捨＝相手の消費の行方に納得、共感し、協力すること。

貨幣という社会的技術の本質＝ i 抽象的な価値単位を提供 ii 会計のシステム iii **譲渡性**
単なる信用ではなく、譲渡することが可能な信用

お金で買えるものを共有することで、
「お金さえあればなんとかなる」から「お金がなくともなんとかなる」へ考え方を変える

これからの社会にとって残された最大の資本は人間。
法人（株式会社）資本主義→人資本主義

資本主義という政治形態を変えろといった革命をするのではなく、
個人個人が成長を目的にせず人としての今を生きることへとシフトする。

7 章 共有地をつくる

〈隣町珈琲〉
I . 突然の移転要請で移転先での改装費 1000 万円が必要に。
i 合同会社を株式会社にする。ii クラウドファンディングを募る iii 銀行から借金
i iii →右肩上がりの時代が終わった現在、非現実的。ii →システム自体が手数料商売のようで抵抗感
半分は街の不動産屋と新しい大家さんの親切で、半分は喜捨（勧進）でお金を集めた。
ii . 自室のものをほとんど全て隣町コーヒーへ移す
→自分にとっての内側兼外側＝縁側のような場所＝縁と無縁が共存できる場所

共同体のネガティブな面（相互監視システム）を回避しながら、共有地（自分の私有しているものを他者と共有できるような場所、他者が喜捨してくれたものを自分も借りられる）を共同体外部のメンバーにも開放する。

私有をやめること＝新しい生き方

コミュニティは自分が作るもの。どこかで自分を救済してくれると思っているコミュニティはお金と同じ。
大切なことは自立。



文筆家、「隣町珈琲」店主
1950 蒲田の町工場に生まれる
早稲田大学理工学部機械工学科卒業後
翻訳を主業務とするアーバン・シリコン
バレーの Business Cafe Inc. の設立に
参加。
2014 荏原中延に「隣町珈琲」オープン



リナックスカフェ



隣町珈琲